

令和 7 年度(2025 年度)用

中学校保健体育用

「新編 新しい保健体育」 指導計画作成資料 【2年】

令和 7 年 (2025 年) 1 月 29 日版

※单元ごとの配當時数、主な学習活動、評価規準などは、今後変更になる可能性があります。
ご了承ください。

東京書籍

単元(章)名	傷害の防止		教科書のページ
配当時数	8 時間	学習指導要領の内容	保健分野 (3)ア、イ

単元(章)の目標	○総括的な目標 傷害の発生要因およびその防止について、課題を発見し、その解決を目指した学習に主体的に取り組む、理解できるようにする。 ○評価の観点に対応した目標 ア 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止、応急手当の意義と実際について、理解することができるとともに、心肺蘇生法などの技能を身につけることができるようにする。(知識・技能) イ 傷害の防止に関わる事象や情報から自他の課題を発見し、危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを他者に伝えたり、表したりすることができるようにする。(思考・判断・表現) ウ 傷害の防止について関心を持ち、主体的に学習の進め方を工夫・調整し、粘り強く学習に取り組むことができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元(章)の観点別評価規準	交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止、応急手当の意義と実際について理解し、心肺蘇生法などの技能を身につけている。	傷害の防止に関わる事象や情報から自他の課題を発見し、危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを他者に伝えたり、表したりしている。	傷害の防止について関心を持ち、主体的に学習の進め方を工夫・調整し、粘り強く学習に取り組もうとしている。
各時の学習活動に対応した観点別評価規準	① 傷害の発生要因には、人的要因と環境要因があり、傷害はそれらが相互に関わり合って起こることを、言ったり書いたりしている。 ② 交通事故による傷害は、人的要因、環境要因および車両要因に関わり合って起こることを、言ったり書いたりしている。 ③ 交通事故による傷害を防ぐには、危険を予測し、安全な行動、環境の改善などを行い、危険を回避することが必要であることを、言ったり書いたりしている。 ④ 犯罪被害には、人的要因と環境要因が関わっており、犯罪被害を防止するためには、危険を予測し、安全な行動、環境の改善などを行い、危険を回避することが必要であることを、言ったり書いたりしている。 ⑤ 地震などの自然災害による傷	[全時共通] ① 傷害の防止に関わる事象や情報などを分析・整理し、事故の発生要因や事故防止の原則や概念を明らかにするため、課題を発見し、習得した知識を活用して、科学的に思考・判断し、表現している。 ② 危険の予測を基に、危険を回避したり傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。	[全時共通] ① 学習内容に関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報などを収集したりして課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 ② 自分の意見を言ったり、他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。

	害は、発生直後に起こる一次災害だけでなく、続いて起こる二次災害によっても生じることについて、言ったり書いたりしている。 ⑥地震などの自然災害による傷害を防止するためには、災害に備えた安全対策や災害時の安全な行動が必要であることを、言ったり書いたりしている。 ⑦（発展の内容）大きな災害が起こったときには、心に大きな傷を受けたり、避難所生活などを強いられたりするため、自助、共助、公助などが必要であることを、言ったり書いたりしている。 ⑧傷害による出血や骨折などの際には、迅速かつ適切な手当が傷害の悪化を防止できることなどについて理解したことを言ったり書いたりし、止血法や包帯法を身につけている。 ⑨心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当として心肺蘇生法があることとその方法について理解したことを言ったり書いたりし、胸骨圧迫、AED 使用などの心肺蘇生法を身につけている。		
観点別評価の基本的な考え方と方法	知識および技能の習得状況について評価するとともに、ほかの学習や生活の場面でも活用できる程度に概念（原理や原則）などを理解しているかについて評価する。 各時の観点別評価規準①～⑨は適宜各時の指導過程に位置づけ、ノートなどへの記述、発言・発表の内容等から判断し、特にC[努力を要する]状況にある者への指導の改善に生かす。 また、指導要録等に反映する評価は、必ずしも毎時間記録する必要はなく、小テスト、まとめの単元（章）テストなどを基にして、単元（章）を総合して行うなどの工夫をする。	知識および技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかを評価する。 評価は、「課題を解決する」場面を中心に、発言や記録の内容、レポートなどを基に、評価上特記すべき事項などを記録・蓄積し、単元（章）を総合して行う（必ずしも全ての時間に、全ての者を対象に評価し、記録する必要はない）。その過程で、特にC[努力を要する]状況にある者への指導の改善に生かすことに留意する。	①学習内容に関心をもち、知識および技能の獲得や思考力・判断力・表現力等を身につけるため、よりよく学ぼうとする意欲をもって、学習に粘り強く取り組みようとする側面と、②他者の考えも受け入れながら進め方を工夫・改善するなど、自らの学習を調整しようとする側面から判断して、単元（章）を通して総合的に評価する。 評価は、①、②それぞれの側面から、または一体的に、各時の学習の活動への取り組みや態度で特記すべきことなどを記録・蓄積し、単元（章）を総合して行う（必ずしも全ての時間に、全ての者を対象に評価し、記録する必要はない）。その過程で、特にC[努力を要する]状況にある者への指導の改善に生かすことに留意する。

*実現状況は、3観点ともに、各学校において評価規準に基づいて実現の状況を判断する指標（目安）を設定し、A B Cの3段階で評価し指導の改善に役立てるとともに、単元ごとに整理したうえで、指導要録の教科の評価・評定に活用する。 A：「十分満足できる」状況と判断される者 B：「おおむね満足できる」状況と判断される者 C：「努力を要する」状況と判断される者

各時の目標および内容・学習活動など

*学習内容・活動は、一例であり、生徒の学習の姿をイメージし、授業の展開や学習方法などに沿って具体的に表現する。また、「広げる」は、適宜取り扱う。

*D…Dマークコンテンツ

目標	時数	学習内容・活動	評価の観点と方法
(1) 傷害の発生要因 ◆ほかの内容との関連：p. 72 交通事故の危険予測と回避、p. 78 自然災害による傷害の防止、p. 114 運動やスポーツの安全な行い方、D傷害の発生要因 ★ほかの教科との関連：家族の住まいを安全・安心に			
傷害の発生要因には、人的要因と環境要因があり、傷害はそれらが相互に関わり合って起こることを理解できるようにする。 p. 68～69	1	1. 見つける 資料1のグラフから、中学生の死亡原因の特徴について話し合う。 2. 発問 事例から、Aさんがけがをした要因を考え、話し合う。 3. 資料3を基に、身の回りの傷害（けが）が起こる要因を整理する。 4. 活用する 例1～3の事例について、事故や傷害の起こった要因を見つけ、発表する。 5. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	[態度①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～5を通じて） [思判表①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～4を通じて） [知技①] 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心
(2) 交通事故の発生要因 ◆ほかの内容との関連：p. 188 スキル自転車安全利用五則、D自転車安全利用五則、D自動車の停止距離、D自動車の内輪差、D自動車の死角、D交通事故の発生要因 ★ほかの教科との関連：理科1年 光の反射・屈折			
交通事故による傷害は、人的要因、環境要因および車両要因が関わり合って起こることを理解できるようにする。 p. 70～71	1	1. 見つける 資料1のグラフから、中学生の交通事故の特徴について話し合う。 2. 発問 事例から、Aさんの事故の要因を整理し、話し合う。 3. 資料2を基に、交通事故の発生要因について整理する。 4. 発問 資料3～6を基に、自転車や自動車の特性を確認し、整理する。 5. 活用する 事例から、事故の人的要因と環境要因を考え、発表し合う。 6. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	[態度①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～6を通じて） [思判表①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～5を通じて） [知技②] 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心
(3) 交通事故の危険予測と回避 ◆ほかの内容との関連：p. 68 傷害の発生要因、p. 188 スキル自転車安全利用五則、D自転車の運転者も加害者になる、D交通事故の危険予測と回避、D危険予測シミュレーション（交通事故）			
交通事故による傷害を防ぐには、危険を予測し、	1	1. 見つける イラストの場面から、人的要因、環境要因に関わる危険を予測し、話し合う。	[態度①②] 発言・ノートなど

安全な行動、環境の改善などを行い、危険を回避することが必要であることを理解できるようにする。 p. 72～73	2. 発問 資料 1 を基に、危険を予測し、危険を回避する方法について考え、整理する。 3. 資料 3 などを基に、交通事故を防ぐための交通環境の整備について調べ、整理する。 4. 活用する 例 1～3 の場面に潜む危険を予測し、危険を回避する方法を考え、説明する。 5. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	特記事項を記録、個別指導 (1～5 を通じて) [思判表①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～4 を通じて) [知技③] 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心
(4) 犯罪被害の防止 ◆ほかの内容との関連：p. 187 スキル インターネットによるコミュニケーションとトラブル、D 人的要因とその対策、D 犯罪被害の防止、D 危険予測シミュレーション (防犯)、D 危険回避の方法 ★ほかの教科との関連：家庭 家庭生活と地域との関わり		
犯罪被害には、人的要因と環境要因が関わっており、犯罪被害を防止するためには、危険を予測し、安全な行動、環境の改善などを行い、危険を回避することが必要であることを理解できるようにする。 p. 74～75	1 1. 見つける 資料 1 のグラフなどから、小学生や中学生が犯罪被害に遭っている場所について話し合う。 2. 発問 地域での生活を振り返り、犯罪被害が起こりやすい場所を考える。 3. 資料 2 を基に、犯罪を防ぐための 3 要素を整理する。 4. 発問 資料 3 を基に、犯罪被害に遭わないようにするための行動について考え、整理する。 5. 活用する 絵の場面から、危険を予想し、回避する方法を考え、説明する。 6. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	[態度①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～6 を通じて) [思判表①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～5 を通じて) [知技④] 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心
(5) 自然災害による危険 ◆ほかの内容との関連：p. 86 さまざまな自然災害の危険 (章末資料)、p. 138 地球温暖化による健康や安全への影響 (章末資料)、p. 190 スキル自然災害が発生したときの行動、D 自然災害 ★ほかの教科との関連：家庭 災害への対策、理科 1 年 火山と地震、理科 2 年 自然の恵みと気象災害、理科 3 年 地域の自然災害		
地震などの自然災害による傷害は、発生直後に起こる一次災害、続いて起こる二次災害の防止が必要であることを理解できるようにする。 p. 76～77	1 1. 見つける 資料 1 の作文などを基に、大きな地震の発生直後に生じる危険について話し合う。 2. 発問 資料 2、3 などを基に、大地震発生直後に生じる危険について考える。 3. 地震の一次災害について整理する。 4. 発問 資料 4、5 などを基に、大地震が発生した後に続けて起こる危険にはどんなものがあるか意見を話し合う。 5. 地震の二次災害について整理する。 6. 活用する さまざまな自然災害における一次災害、二次災害について調べ、表などに整理し、発表し合う。 7. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	[態度①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～7 を通じて) [思判表①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～6 を通じて) [知技⑤] 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心
(6) 自然災害による傷害の防止 ◆ほかの内容との関連：口絵 3 「情報の活用」、p. 68 傷害の発生要因、p. 86 さまざまな自然災害の危険 (章末資料)、p. 88 防災タイムライン (章末資料)、p. 189 スキル地震が発生したときの行動、p. 190 スキル自然災害が発生したときの行動、D 地震防災、D 正しい情報の入手と避難行動、D 防災シミュレーション、		

D 防災タイムライン

★ほかの教科との関連：理科 1 年 地震に備えるためにD、家庭 災害への対策D

地震などの自然災害による傷害を防止するためには、災害に備えた安全対策や災害時の安全な行動が必要であることを理解できるようにする。 p. 78～79	1 1. 見つける 生活を振り返り、自分で行っている地震などの自然災害への備えを発表し合う。 2. 発問 資料 1 などを基に、自然災害に備えるために必要な対策について考え、整理する。 3. 発問 資料 2 やこれまでの経験などから、災害時の安全な行動の仕方について考え、整理する。 4. 資料 3 やこれまでの経験などから、災害時の正しい情報の入手の仕方について考え、整理する。 5. 活用する 災害時に安全に避難できるように、教科書の A さんの家族の防災タイムラインを作成し、発表し合う。 6. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	[態度①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～6 を通じて) [思判表①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～5 を通じて) [知技⑥] 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心
---	---	--

●共に生きる（発展の内容）

◆ほかの内容との関連：p. 86 さまざまな自然災害の危険（章末資料）、p. 88 防災タイムライン（章末資料）、

D 自主防災組織の活動

★ほかの教科との関連：社会（公民） 自然災害と防災・減災

大きな災害が起こったときには、心に大きな傷を受けたり、避難所生活などを強いられったりするため、自助、共助、公助が必要であることを理解できるようにする。 p. 80～81	1 1. 大きな災害が発生したときの心の変化や対処の方法について調べる。 2. 資料 2、3 などを基に、避難所生活やボランティアについて調べ、発表し合う。 3. 資料 4 や読み物などを基に、被害を軽減するための自助、共助、公助について調べ、発表し合う。 4. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	[態度①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～4 を通じて) [思判表①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～3 を通じて) [知技⑦] 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心
--	--	--

(7) 応急手当の意義と方法

◆ほかの内容との関連：p. 179 スキル直接圧迫止血法・包帯法、p. 192 スキル RICE（ICER）、D 直接圧迫止血法、D 包帯法

傷害による出血や骨折などの際には、迅速かつ適切な手当が傷害の悪化を防止できることなどについて理解し、止血法や包帯法ができるようにする。 p. 82～83	1 1. 見つける イラストの二つの場面に直面したとき、どのように行動したらよいか話し合う。 2. 発問 すぐに手当を行わないと、どのような影響が出る可能性があるか考え、応急手当の意義を整理する。 3. 出血や骨折、捻挫などの応急手当の方法を整理する。 4. 実習 p. 179 の実習資料を基に、正しい方法を確認しながら直接圧迫止血法の実習を行う。 5. 実習 p. 179 の実習資料を基に、正しい方法を確認しながら包帯や固定具を使った包帯法の実習を行う。	[態度①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～6 を通じて) [思判表①②] 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～5 を通じて) [知技⑧] 定期テストなど 授業時は生徒の反応や実習の様子、ノートチェックなどによる個別指導中心
--	---	--

		6. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	
(8) 心肺蘇生法 ◆ほかの内容との関連：p. 180 スキル心肺蘇生法の手順、p. 181 スキル心肺蘇生の方法（胸骨圧迫）、p. 182 スキル心肺蘇生の方法（気道の確保、人工呼吸）p. 183 スキル AED（自動体外式除細動器）、 □ 心肺蘇生の方法（胸骨圧迫）、 □ 心肺蘇生の方法（気道の確保、人工呼吸）、 □ AED（自動体外式除細動器）			
心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当として心肺蘇生法があることとその方法について理解し、胸骨圧迫、AED 使用などの心肺蘇生法ができるようにする。 p. 84～85	1	1. 見つける 事例のように、友達が急に倒れたときの行動について話し合う。 2. 発問 資料 1、2 を基に、意識がない傷病者に対し、居合わせた人がどのような行動をとるべきか話し合う。 3. 心肺蘇生法や AED の意義について整理する。 4. 実習 心肺蘇生法や AED の使用法について、p. 180～183 の実習資料を確認・評価しながら、応急手当の実習を行う。 5. 活用する p. 180～183 の実習資料を基に、 □ ～ □ について考える。 6. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。 ＊生徒の実態などにより、適宜実習の時間を調整する。	〔態度①②〕 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 （1～6 を通じて） 〔思判表①②〕 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 （1～5 を通じて） 〔知技⑨〕 定期テストなど 授業時は生徒の反応や実習の様子、ノートチェックなどによる個別指導中心

単元(章)名	健康な生活と疾病の予防②		教科書のページ	p. 89～108
配当時数	8 時間	学習指導要領の内容	保健分野[第2学年] (1)ア(ウ)(エ)、イ	

単元(章)の目標	○総括的な目標 健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、課題を発見し、その解決を目指した学習に主体的に取り組み、理解できるようにする。 ○評価の観点に対応した目標 ア 健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、理解できるようにする。 (知識・技能) イ 健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康に関わる事象や情報を基に課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりする視点から解決を目指して科学的に思考・判断して、それらを他者に伝えたり、表したりすることができるようにする。 (思考・判断・表現) ウ 健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について関心をもち、主体的に学習の進め方を工夫・調整し、自他の健康の保持増進や回復についての学習に粘り強く取り組むことができるようにする。 (主体的に学習に取り組む態度)		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元(章)の観点別評価規準	健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、理解している。	健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康に関わる事象や情報を基に課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりする視点から解決を目指して科学的に思考・判断し、それらを他者に伝えたり、表したりしている。	健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について関心をもち、主体的に学習の進め方を工夫・調整し、自他の健康の保持増進や回復についての学習に粘り強く取り組もうとしている。
各時の学習活動に対応した観点別評価規準	①生活習慣病は、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こることを、言ったり書いたりしている。 ②生活習慣病の多くは、適切な運動、食事、休養および睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できることを、言ったり書いたりしている。 ③がんの発生の仕方や要因と、自分でできるがんの予防には適切な生活習慣を身につけることが有効であることを、言ったり書いたりしている。 ④喫煙は、ニコチン、タール、一酸化炭素などのたばこの有害物質により心身にさまざまな影響(害)を与え、健康を損なう原因となることを、言ったり書いたりしている。 ⑤飲酒は、酒に含まれるエチルアルコールの作用により心身	[全時共通] ①健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康に関わる事象や情報などから、原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連づけたりして、自他の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法等を選択している。 ②健康な生活と生活習慣病などの予防および喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、疾病等のリスクを軽減し健康を保持増進する方法を考え、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。	[全時共通] ①学習内容に関心をもち、教科書の資料を活用したり、身近な情報などを収集したりして課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 ②自分の意見を言ったり、他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。

	にさまざまな影響（害）を与え、健康を損なう原因となることを、言ったり書いたりしている。 ⑥覚醒剤や大麻などの薬物乱用は、心身にさまざまな影響（害）を与え、健康を損なう原因となることを、言ったり書いたりしている。 ⑦覚醒剤や大麻などの薬物乱用は、精神に障害を起こすため、正常な社会生活を送ることが困難になったり、社会に深刻な影響を与えたりすることがあることを、言ったり書いたりしている。 ⑧喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があることを、言ったり書いたりしている。		
観点別評価の基本的な考え方と方法	知識および技能の習得状況について評価するとともに、ほかの学習や生活の場面でも活用できる程度に概念（原理や原則）などを理解しているかについて評価する。 各時の観点別評価規準①～⑧は適宜各時の指導過程に位置づけ、ノートなどへの記述、発言・発表の内容等から判断し、特にC[努力を要する]状況にある者への指導の改善に生かす。 また、指導要録等に反映する評価は、必ずしも毎時間記録する必要はなく、小テスト、まとめの単元（章）テストなどを基にして、単元（章）を総合して行うなどの工夫をする。	知識および技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかを評価する。 評価は、「課題を解決する」場面を中心に、発言や記録の内容、レポートなどを基に、評価上特記すべき事項などを記録・蓄積し、単元（章）を総合して行う（必ずしも全ての時間に、全ての者を対象に評価し、記録する必要はない）。その過程で、特にC[努力を要する]状況にある者への指導の改善に生かすことに留意する。	①学習内容に関心をもち、知識および技能の獲得や思考力・判断力・表現力等を身につけるため、よりよく学ぼうとする意欲をもって、学習に粘り強く取り組もうとする側面と、②他者の考えも受け入れながら進め方を工夫・改善するなど、自らの学習を調整しようとする側面から判断して、単元（章）を通して総合的に評価する。 評価は、①、②それぞれの側面から、または一体的に、各時の学習の活動への取り組みや態度で特記すべきことなどを記録・蓄積し、単元（章）を総合して行う（必ずしも全ての時間に、全ての者を対象に評価し、記録する必要はない）。その過程で、特にC[努力を要する]状況にある者への指導の改善に生かすことに留意する。
	*実現状況は、3観点ともに、各学校において評価規準に基づいて実現の状況を判断する指標（目安）を設定し、ABCの3段階で評価し指導の改善に役立てるとともに、単元ごとに整理したうえで、指導要録の教科の評価・評定に活用する。 A：「十分満足できる」状況と判断される者 B：「おおむね満足できる」状況と判断される者 C：「努力を要する」状況と判断される者		

各時の目標および内容・学習活動など

*学習内容・活動は、一例であり、生徒の学習の姿をイメージし、授業の展開や学習方法などに沿って具体的に表現する。また、「広げる」は、適宜取り扱う。

***D**…Dマークコンテンツ

目標	時数	学習内容・活動	評価の観点と方法
(1) 生活習慣病の起こり方 ◆ほかの内容との関連：p. 16 運動と健康、p. 22 調和のとれた生活、p. 46 ストレスによる健康への影響、 D 血管の変化、 D 主な生活習慣病			
生活習慣病は、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こることを理解できるようにする。 p. 90～91	1	1. 見つける 事例から、Aさんがどんな生活を送ってきたか考え、話し合う。 2. 発問 資料 1 を基に、知っている生活習慣病を発表し合う。 3. 発問 資料 2、3 を基に、心臓病、脳卒中、歯周病などの生活習慣病の起こり方を整理する。 4. さまざまな生活習慣病とその主な原因について調べる。 5. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	【態度①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～5 を通じて） 【思判表①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～4 を通じて） 【知技①】 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心
(2) 生活習慣病の予防 ◆ほかの内容との関連：p. 54 適正体重を守ろう（章末資料）、p. 108 むし歯や歯周病を予防するための運動（章末資料）、p. 152 保健・医療機関の利用、p. 154 健康を守る社会の取り組み ★ほかの教科との関連：家庭 バランスの良い食事、社会（公民） 国民の生活と政府の役割			
生活習慣病の多くは、適切な運動、食事、休養および睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できることを理解できるようにする。 p. 92～93	1	1. 見つける 「メタボ」という言葉を聞いたことがあるか、どんなことを思い浮かべるか話し合う。 2. 発問 生活を振り返ったり、資料 1、2 を基にしたりして、生活習慣病の予防に必要なことを整理する。 3. 発問 資料 3 を基に、生活習慣病を予防するための社会の取り組みについて調べ、整理する。 4. 活用する A さんへのアドバイスを考え、発表し合う。 5. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	【態度①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～5 を通じて） 【思判表①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～4 を通じて） 【知技②】 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心
(3) がんの予防 ◆ほかの内容との関連：p. 96 喫煙の害と健康、p. 106 がんについてもっと知ろう（章末資料）、p. 154 健康を守る社会の取り組み、 D がんの発生の仕組み			
がんの発生の仕方や要因と、自分のできるがんの予防には適切な生活習慣を身につけることが有効であることを理解できるようにする。 p. 94～95	1	1. 見つける 自分が聞いたことのある「がん」に○を付け、知っていることなどについて話し合う。 2. 発問 資料 1 を基に、がんの発生の仕方について調べる。 3. 発問 資料 3 を基に、がんの要因と予防について調べ、整理する。 4. 発問 資料 4 を基に、がんの早期発見と回復について考え、話し合う。 5. 活用する 資料 5 を基に、新旧のがんを防ぐための 12 か条を読み比べ、気づいたことを	【態度①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～6 を通じて） 【思判表①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～5 を通じて） 【知技③】 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心

		挙げながら、生活習慣の改善の工夫について考え、発表し合う。 6. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	
(4) 喫煙の害と健康 ◆ほかの内容との関連：p. 30 呼吸器・循環器の発育・発達、p. 50 胎児を育てる母体の神秘（章末資料）、p. 94 がんの予防、p. 107 インターネットと依存症（章末資料）、D 喫煙の害（実験） ★ほかの教科との関連：理科 2 年 動物のからだのつくりとはたらき			
喫煙は、ニコチン、タール、一酸化炭素などのたばこの有害物質により心身にさまざまな影響(害)を与え、健康を損なう原因となることを理解できるようにする。 p. 96～97	1	見つける 資料 1 から、気づいたことを話し合う。 発問 資料 2 を基に、たばこの有害物質を調べる。 - 資料 4、5 を基に、喫煙の健康への影響を調べ、整理する。 発問 喫煙開始年齢と健康への影響について考え、発表し合う。 活用する 資料 6 から分かることをまとめ、説明する。 - 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	【態度①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～6 を通じて） 【思判表①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～5 を通じて） 【知技④】 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心
(5) 飲酒の害と健康 ◆ほかの内容との関連：p. 50 胎児を育てる母体の神秘（章末資料）、p. 107 インターネットと依存症（章末資料）			
飲酒は、酒に含まれるエチルアルコールの作用により心身にさまざまな影響(害)を与え、健康を損なう原因となることを理解できるようにする。 p. 98～99	1	見つける なぜ飲酒運転で事故が起こってしまうか話し合う。 発問 資料 2 を基に、飲酒の急性的な影響について調べ、整理する。 発問 資料 3 を基に、常習的な飲酒の影響を調べ、整理する。 - 発育・発達期の飲酒の影響について調べ、整理する。 活用する A さんと B さんの発言に対する返答を考え、発表し合う。 - 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	【態度①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～6 を通じて） 【思判表①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～5 を通じて） 【知技⑤】 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心
(6) 薬物乱用の害と健康 ◆ほかの内容との関連：p. 107 インターネットと依存症（章末資料）、P150 医薬品の利用、p. 170 アンチ・ドーピング（章末資料）、D 薬物乱用の悪循環			
覚醒剤や大麻などの薬物乱用は、心身にさまざまな影響(害)を与え、健康を損なう原因となることを理解できるようにする。 p. 100～101	1	見つける 覚醒剤の使用や所持が、年齢に関係なく法律で禁止されている理由について話し合う。 発問 資料 2 を基に、乱用される薬物について調べる。 - 薬物乱用について整理する。 発問 資料 3 を基に、薬物乱用の脳への悪影響について調べ、健康への影響を整理する。 - 資料 4 を基に、薬物乱用の悪循環について調べ、説明する。 - 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	【態度①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～6 を通じて） 【思判表①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～5 を通じて） 【知技⑥】 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心

(7) 薬物乱用の社会的な影響

◆ほかの内容との関連：D 薬物乱用体験者インタビュー

覚醒剤や大麻などの薬物乱用は、精神に障害を起こすため、正常な社会生活を送ることが困難になったり、社会に深刻な影響を与えたりすることがあることを理解できるようにする。 p. 102～103	1	1. 見つける Aさんの発言について、どう思うか話し合う。 2. 発問 資料1などを基に、薬物乱用者が周りの人に与える影響について整理し、発表し合う。 3. 発問 資料2、3などを基に、薬物乱用による犯罪や事故について調べ、発表し合う。 4. 活用する 「薬物乱用は個人の自由だ」という意見に対し、どのように反論するか考え、発表し合う。 5. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	【態度①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～5を通じて) 【思判表①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～4を通じて) 【知技⑦】 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノート チェックなどによる個別 指導中心
--	---	--	--

(8) 喫煙・飲酒・薬物乱用の要因と適切な対処

◆ほかの内容との関連：p. 48 ストレスへの対処の方法、p. 191 スキル喫煙や飲酒を勧められたら

喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があることを理解できるようにする。 p. 104～105	1	1. 見つける 事例を読み、身近な生活での飲酒の機会や誘惑について話し合う。 2. 発問 資料1を基に、喫煙、飲酒、薬物乱用には害があると知りながら、それを始めてしまう理由について考え、整理する。 3. 発問 資料2を基に、社会環境と喫煙・飲酒・薬物乱用について調べ、整理する。 4. 喫煙・飲酒・薬物乱用をしないための対処について調べ、整理する。 5. 活用する 「見つける」の事例の、断れない背景や適切な対処について考え、発表し合う。 6. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	【態度①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～6を通じて) 【思判表①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導 (1～5を通じて) 【知技⑧】 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノート チェックなどによる個別 指導中心
---	---	---	--

単元(章)名	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方		教科書のページ	p. 109～119
配当時間	3 時間	学習指導要領の内容	体育分野[第 1 学年および第 2 学年] H(2)ア、イ、ウ	

単元(章)の目標	○総括的な目標 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、課題を発見し、その解決を目指した学習に主体的に取り組み、理解できるようにする。 ○評価の観点に対応した目標 ア 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、理解できるようにする。 (知識・技能) イ 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断するとともに、それらを他者に伝えることができるようにする。 (思考・判断・表現) ウ 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について関心をもち、主体的に学習の進め方を工夫・調整し、粘り強く学習に取り組むことができるようにする。 (主体的に学習に取り組む態度)		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元(章)の観点別評価規準	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、理解している。	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断するとともに、それらを他者に伝えたり、表したりしている。	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について関心をもち、主体的に学習の進め方を工夫・調整し、粘り強く学習に取り組もうとしている。
各時の学習活動に対応した観点別評価規準	①運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的效果およびルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できることを、言ったり書いたりしている。 ②運動やスポーツには、特有の技術があり、その学び方には、運動の課題を合理的に解決するための一定の方法があることを、言ったり書いたりしている。 ③運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることを、言ったり書いたりしている。	[全時共通] ①運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、思考・判断・表現している。 ②運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、習得した知識を活用して、自己の運動やスポーツの行い方に生かす方法を考え、他者に伝えたり、ノートなどに記述したりしている。	[全時共通] ①学習内容に関心をもち、教科書の資料を活用したり、身近な情報などを収集したりして課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。 ②自分の意見を言ったり、他者の意見を取り入れたりして、自己の学習の進め方や活用する資料を変える、調べた内容を確認・修正するなど、学習を調整しながら取り組んでいる。

観点別評価の基本的な考え方と方法	知識および技能の習得状況について評価するとともに、ほかの学習や生活の場面でも活用できる程度に概念(原理や原則)などを理解しているかについて評価する。 各時の観点別評価規準①～③は適宜各時の指導過程に位置づけ、ノートなどへの記述、発言・発表の内容等から判断し、特にC[努力を要する]状況にある者への指導の改善に生かす。 また、指導要録等に反映する評価は、必ずしも毎時間記録する必要はなく、小テスト、まとめの単元(章)テストなどを基にして、単元(章)を総合して行うなどの工夫をする。	知識および技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかを評価する。 評価は、「課題を解決する」場面を中心に、発言や記録の内容、レポートなどを基に、評価上特記すべき事項などを記録・蓄積し、単元(章)を総合して行う(必ずしも全ての時間に、全ての者を対象に評価し、記録する必要はない)。その過程で、特にC[努力を要する]状況にある者への指導の改善に生かすことに留意する。	①学習内容に関心をもち、知識および技能の獲得や思考力・判断力・表現力等を身につけるため、よりよく学ぼうとする意欲をもって、学習に粘り強く取り組もうとする側面と、②他者の考えも受け入れながら進め方を工夫・改善するなど、自らの学習を調整しようとする側面から判断して、単元(章)を通して総合的に評価する。 評価は、①、②それぞれの側面から、または一体的に、各時の学習の活動への取り組みや態度で特記すべきことなどを記録・蓄積し、単元(章)を総合して行う(必ずしも全ての時間に、全ての者を対象に評価し、記録する必要はない)。その過程で、特にC[努力を要する]状況にある者への指導の改善に生かすことに留意する。
	*実現状況は、3観点ともに、各学校において評価規準に基づいて実現の状況を判断する指標(目安)を設定し、ABCの3段階で評価し指導の改善に役立てるとともに、単元ごとに整理したうえで、指導要録の教科の評価・評定に活用する。 A:「十分満足できる」状況と判断される者 B:「おおむね満足できる」状況と判断される者 C:「努力を要する」状況と判断される者		

各時の目標および内容・学習活動など

*学習内容・活動は、一例であり、生徒の学習の姿をイメージし、授業の展開や学習方法などに沿って具体的に表現する。また、「広げる」は、適宜取り扱う。

***D**…Dマークコンテンツ

目標	時数	学習内容・活動	評価の観点と方法
(1) 運動やスポーツの効果 ◆ほかの内容との関連: p. 16 運動と健康、p. 28 体の発育・発達、p. 30 呼吸器・循環器の発育・発達、p. 38 心の発達、p. 42 心と体の関わり、p. 46 ストレスによる健康への影響、p. 116 体力の要素(章末資料) ★ほかの教科との関連: 理科2年 感覚器官、神経系、運動器官、骨と筋肉の働きD			
運動やスポーツは、身体発達の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果およびルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できることを理解できるようにする。 p. 110～111	1	見つける 教科書のイラストを参考に、運動した後の体や心の変化を思い出す。 - 運動やスポーツの体への効果を調べ、整理する。 - 自己の経験を振り返り、運動やスポーツの心への効果を考え、発表する。 発問 自己の経験や資料3を基に、運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果について考え、発表し合う。 活用する 設問について考え、発表し合う。 - 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	【態度①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導(1～6を通じて) 【思判表①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導(1～5を通じて) 【知技①】定期テストなど授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心

(2) 運動やスポーツの学び方

◆ほかの内容との関連：p. 116 体力の要素（章末資料）、p. 119 スポーツも脳が行う（章末資料）、**D**運動やスポーツの学び方

運動やスポーツには、特有の技術があり、その学び方には、運動の課題を合理的に解決するための一定の方法があることを理解できるようにする。 p. 112～113	1	1. 見つける 教科書のイラストを参考に、自分がどんなことを考えながら運動やスポーツを行っているか考え、話し合う。 2. 資料1を基に、運動やスポーツの技術と技能について考え、整理する。 3. 資料2を基に、運動やスポーツの合理的な学び方を整理する。 4. 活用する ふだん行っている運動やスポーツの合理的な学び方を具体的に考え、発表し合う。 5. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	【態度①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～5を通じて） 【思判表①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～4を通じて） 【知技②】 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心
---	----------	---	--

(3) 運動やスポーツの安全な行い方

◆ほかの内容との関連：口絵 1 情報の活用、p. 22 調和のとれた生活、p. 68 傷害の発生要因、p. 117 運動やスポーツと食事（章末資料）、p. 118 スポーツ障害（章末資料）、p. 192 スキル RICE（ICER）、p. 192 スキル熱中症の予防と手当、p. 193 スキル野外スポーツを安全に行う、**D**運動やスポーツを行うときの注意

運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることを理解できるようにする。 p. 114～115	1	1. 見つける 運動やスポーツ中に気をつけていることを振り返り、発表し合う。 2. 資料1を基に、安全に配慮した運動やスポーツの選択や計画の立て方について考え、整理する。 3. 発問 資料2、4を基に、準備運動や整理運動の必要性について考え、発表し合う。 4. 運動前、運動中、運動後の安全面の注意点について整理する。 5. 野外活動を安全に行うための注意点を考え、整理する。 6. 活用する 安全に運動やスポーツを行うための自分の課題について考え、発表し合う。 7. 学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	【態度①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～7を通じて） 【思判表①②】 発言・ノートなど 特記事項を記録、個別指導（1～6を通じて） 【知技③】 定期テストなど 授業時は生徒の反応やノートチェックなどによる個別指導中心
--	----------	--	--